



家族関係に焦点を当てた介護者支援

生活環境科学系・臨床心理学領域

馬場 絢子

助教

BABA Ayako

博士(教育学)(東京大学)

■研究キーワード 臨床心理学／家族心理学／老年心理学

■主な所属学会 日本心理学会／日本家族療法学会／日本老年臨床心理学会／日本老年社会学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.965316949626c851520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

家族関係という長期的な文脈(①)と、介護・ケアという事象(②)に関心をもっています。そこで、家族関係を扱う家族心理学と、加齢や高齢社会を扱う老年学とをバックグラウンドに、以下のような研究を行っています。

1. 家族関係に焦点をあてた家族介護者支援(①×②)
2. 大学における若者ケアラー支援(①×②)
3. 高齢者の生きがい・心理的Well-being向上、心理社会的フレイル予防(②の予防)

手法としては、心理尺度を用いたアンケート調査の統計解析や、インタビュー・フィールド調査の質的分析を主としています。この関連で、心という見えないものをいかに捉えるかというテーマにも取り組んでいます。

4. 心理尺度回答における困難感



高齢者の健康増進調査の様子



イギリスでのケアラー支援 視察の様子

アピールポイント

1. だれもがケアをする時代で、介護をする人の支援の重要性も認識されるようになってきました。家族介護は家族関係の上に成り立つものであり、時には過去の葛藤が再燃したり、仲が良かったために家族の変化を受け入れがたく感じたりもするのです。本研究は、こうした介護が始まる前からの家族関係という視点から介護者支援を考えると独自性があります。超高齢社会である日本からの発信は、世界的なインパクトをもつことが期待されます。

2. ヤングケアラーの支援は、2024年に法制化されるなど、近年注目が集まっているトピックです。本研究では、世界的にも課題になっている大学生ケアラーの支援に注目し、教員・職員・学生相談員という多視点から大学での支援を考えます。若者が抱える新たな困難に対して、大学はなにをどこまでできるか、すべきか、検討しています。

3. 高齢者のフレイル(要介護の一手手前の虚弱状態)予防の基本は、栄養・運動・社会参加です。このうち社会参加は、人や社会とつながることを意味し、心身の健康と関連することが明らかになっています。本研究では、個々人の性格、志向、経験等様々な要素を考慮しながら、どのような社会参加がどのように心理的Well-beingに寄与するか検討しています。教育学・医学・工学等、分野横断の学際的研究チームで活動しているのも特徴です。

4. 心を扱う研究や臨床においては、心を測定するために、しばしば心理尺度が使用されます。しかし尺度の内容や回答の特性・状態等様々な要因により、回答が難しいケースがあります。本研究では、この回答における困難感に焦点を当てているところに独自性があります。その要因・内容・支援可能性等を検討し、より多くの人の心が学問や支援の発展に反映されることを目指しています。